



いるま川 がわ
洪水ものガたい こう ずい



とう じょう じん ぶつ しょう かい
～登場人物紹介～

マモル

かしわばらしょう ねんせい
柏原小 5年生

サッカーとゲームが大好き。
クラスではいつもおもしろい
ことを言^いって人^{にん}気^き者^{もの}。



さやか

いもうと かしわばらしょう ねんせい
マモルの妹。柏原小 1年生

まわりのことによく気^きがつく子^こ。
泣^なき虫^{むし}なのが玉^{たま}にキズ。



ふうふ
テンジクネズミの夫婦

ちこうざんこうえん てつとう うえ とくい
智光山公園の鉄塔の上から、まちのうわさをかぎつけるのが得意。
どこまでも見^みとおせる望^{ぼう}遠^{えん}鏡^{きょう}で、人^{にん}間^{げん}ウオッチングをするのが趣^{しゅ}味^み。



クリーム



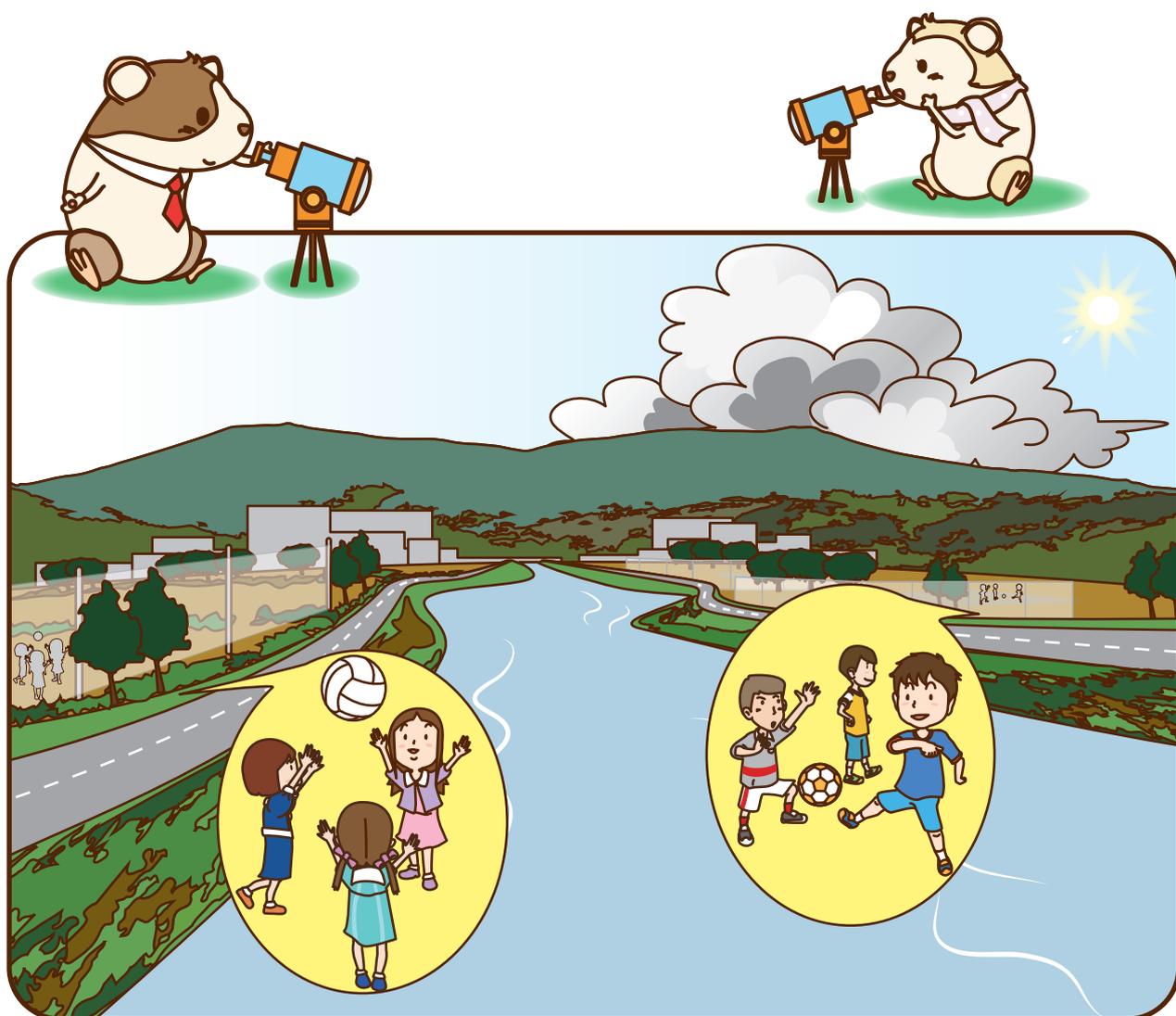
チョコ

とても ^{あつ}暑い ^{なつやす}夏休みの ^{ごご}ある午後。

ネズミ夫婦は ^{ふうふ}いつものとおり、^{にんげん}人間ウォッチングを
^{たの}楽しんで ^{います}います。

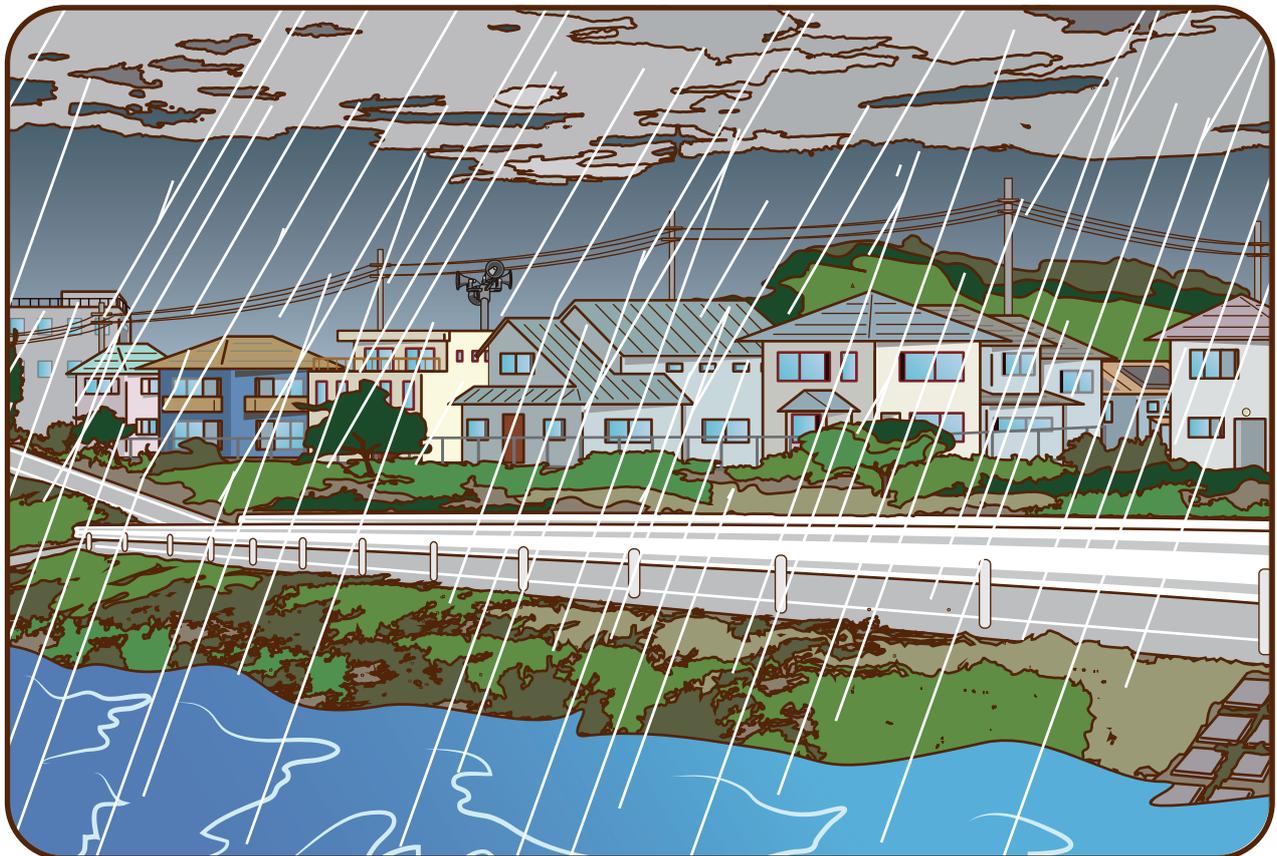
^{いるまがわ}入間川の ^{かせんじき}河川敷では ^{バレーボール}バレーボールをする
^{おんなこ}女の子、^{サッカー}サッカーをする ^{おとここ}男の子たちの ^{げんき}元気な
^{こえ}声が ^{ひびいて}ひびいて ^{います}います。

みんな ^{かしわばらしょう}柏原小の ^{ねんせい}5年生の ようです。



それから ^{ふつかご} 2日後。 ^{きょう} 今日 ^{あめ} は ひどい 雨です。

^{たいふうつうか} 台風通過のため、^{ゆうがた} 夕方から もっと ひどくなると ^{よほう} 予報がでて
います。



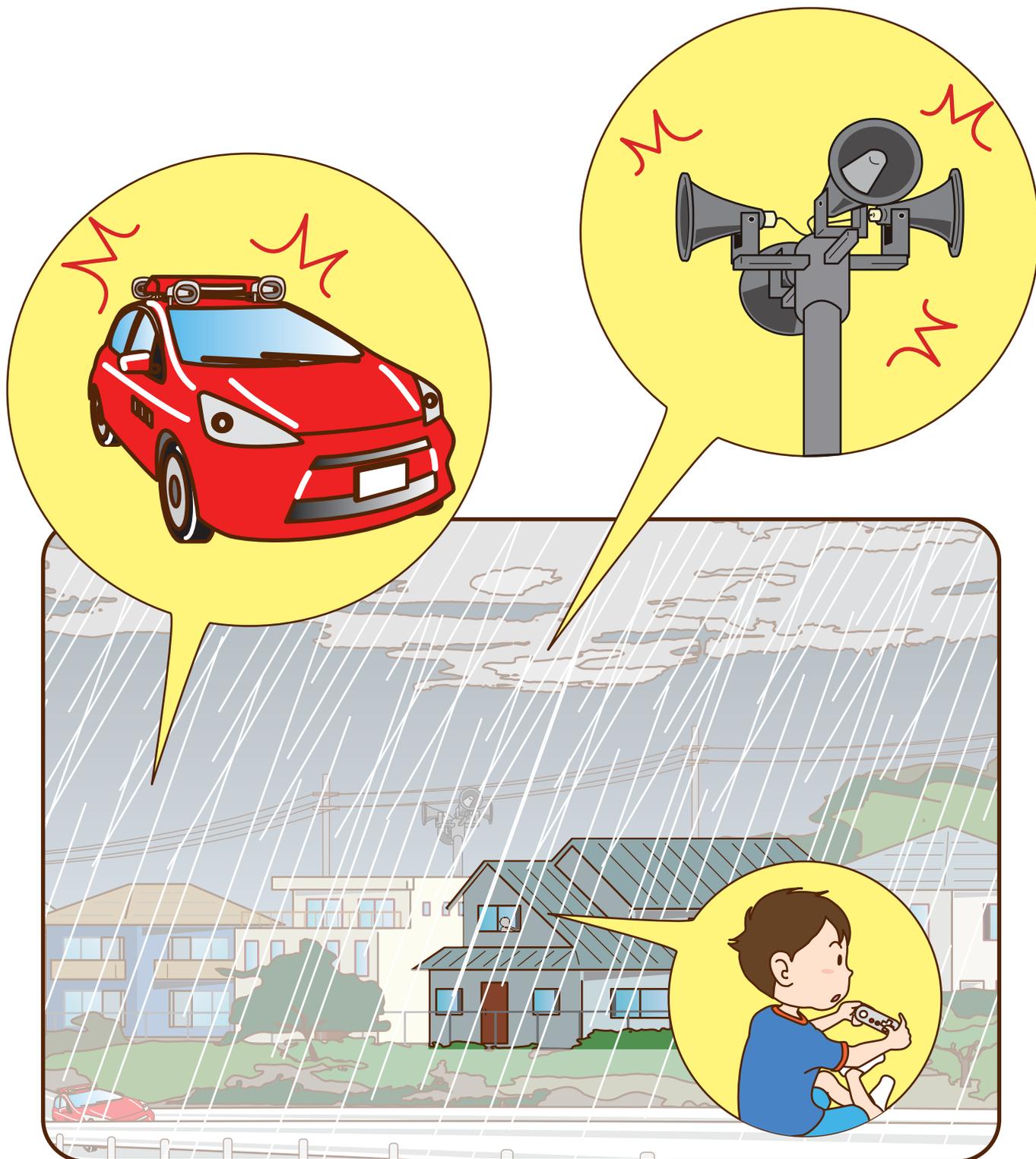
「マモルは ^{なに}何をして ^{いる}いるかな？」 ^{ふうふ}ネズミ夫婦は
さっそく ^{じまん}自慢の ^{ぼうえんきょう}望遠鏡で ^{のぞ}のぞいて ^みみました。

「やれやれ、^{じゆく}塾が ^{おおあめ}大雨で ^{やす}休みに ^ななったから、
^{とき}この時とばかり、^{ゲーム}ゲームに ^{ねっちゆう}熱中して ^いいるよ。」



そと あめ ま
外の 雨は どんどん はげしさを 増しています。

しばらくして、^{おおあめ こうずいけいほう}大雨・洪水警報が
^{はつれい}発令されましたが、マモルも さやかも
ぜんぜん ^き気がつきません。



ようやく、妹の ^{いもうと} さやかが ^き 気づきました。

そして、お母さんに ^{かあ} 電話を ^{でんわ} かけましたが ^{つう} 通じないと
わかると ^な 泣き出して ^だ しまいました。

「お兄ちゃん、^{にい} 大雨・^{おおあめ} 洪水^{こうずいけいほう} 警報だって。

こんな^{とき} 時に ママは ^{しごと} お仕事に ^い 行ったままだし、
わたし、こわいよ〜」



おおあめ こうずいけいほう き ころ
「大雨・洪水警報」と聞いて マモルの 心に スイッチが
はい
入りました。

てばな とき おな
ゲームを 手放し、フリーキックを ける時と 同じ
しんけん め
真剣な目に なりました。

がっこう ぼうさい なら おも だ
そして、学校で 防災について 習ったのを 思い出し、
おお いき す
大きく 息を吸うと、「よし、さやか。おれにまかせとけ！」
おお こえ さけ
と大きな声で 叫びました。



そうは ^い言った ^{なに}ものの、何をしたら いいのでしょうか？

マモルは ^{むね}胸が ドキドキするのを おさえながら、
^{がっこう}学校で ^{なら}習った ことを ^{ひっし}必死で ^{おも}思い出そうと ^だしました。
いろんな ことを ^{なら}習ったけど・・・

①とにかく早く^{はや}逃げる^{にげ}？

②浸水^{しんすい}に備えて^{そな}2階^{かい}に上がる^あ？

③情報^{じょうほう}を集める^{あつ}？

こんな^{とき}時、みんななら どうする？



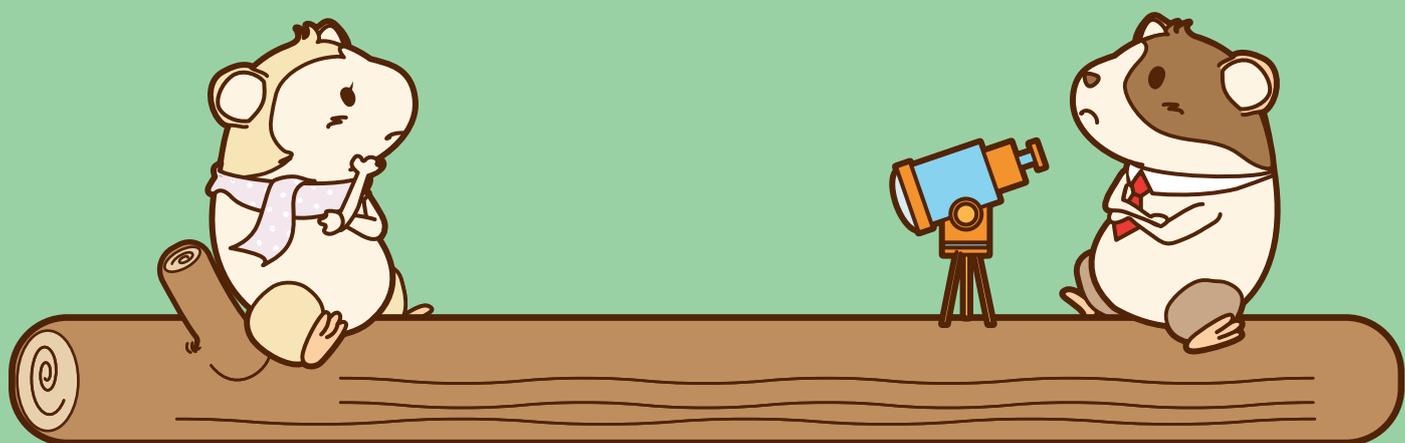
ネズミ夫婦の解説コーナー

この段階で1番大事なのは③の情報収集
です。

①の「とにかく早く逃げる」と

②の「浸水に備えて2階に上がる」は
ちょっと早すぎるね。

まずは、③のように正確な情報を集めて、
周囲の状況を整理しよう。



マモルは すぐに テレビを つけました。

ニュースや 気象情報は やっていない ようです。
そこで すぐに d ボタンを 押しました。

狭山市： 大雨・洪水警報

飯能市： 大雨特別警報

この時、マモルの 頭の中では どんな思いが 巡っているかな？

① 飯能市で、土砂災害が発生しているかもしれない。

② 狭山市に特別警報が出なくてよかった。

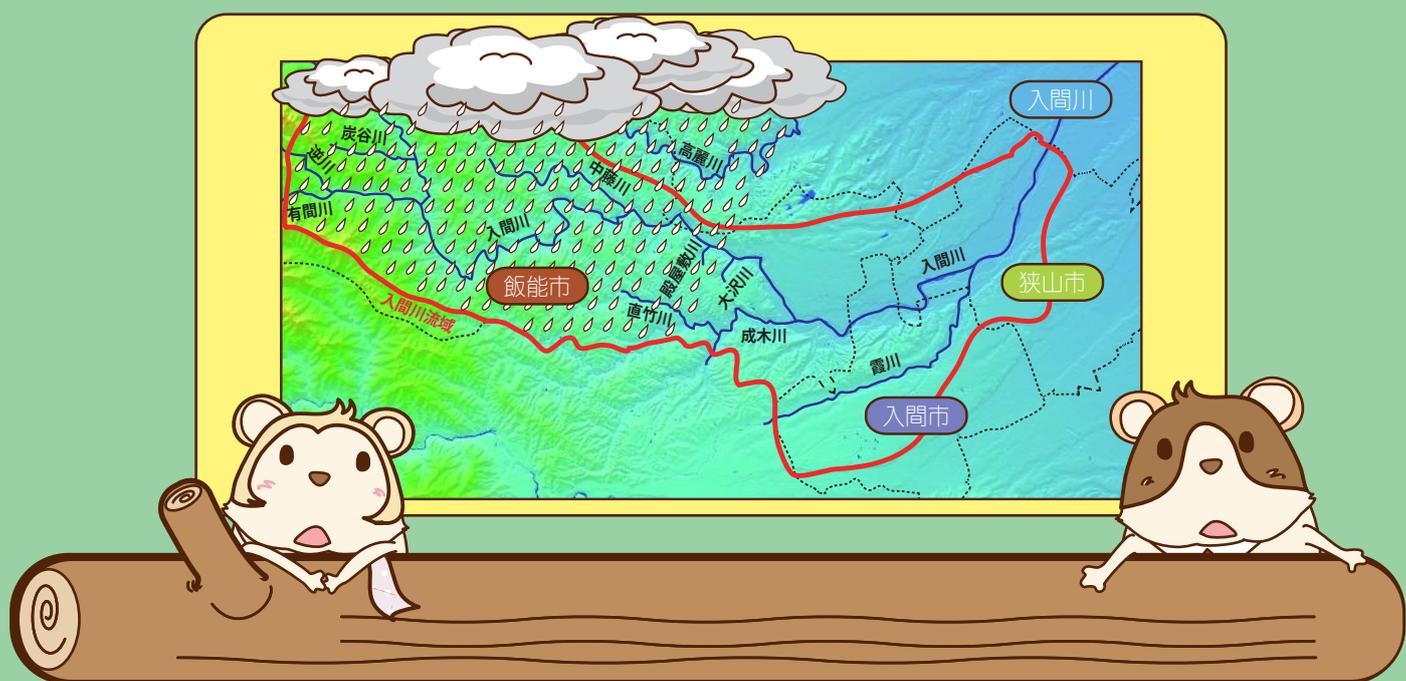
③ 入間川の水位が上がって、狭山市も危なくなるかもしれない。



ふうふ かいせつ ネズミ夫婦の解説コーナー

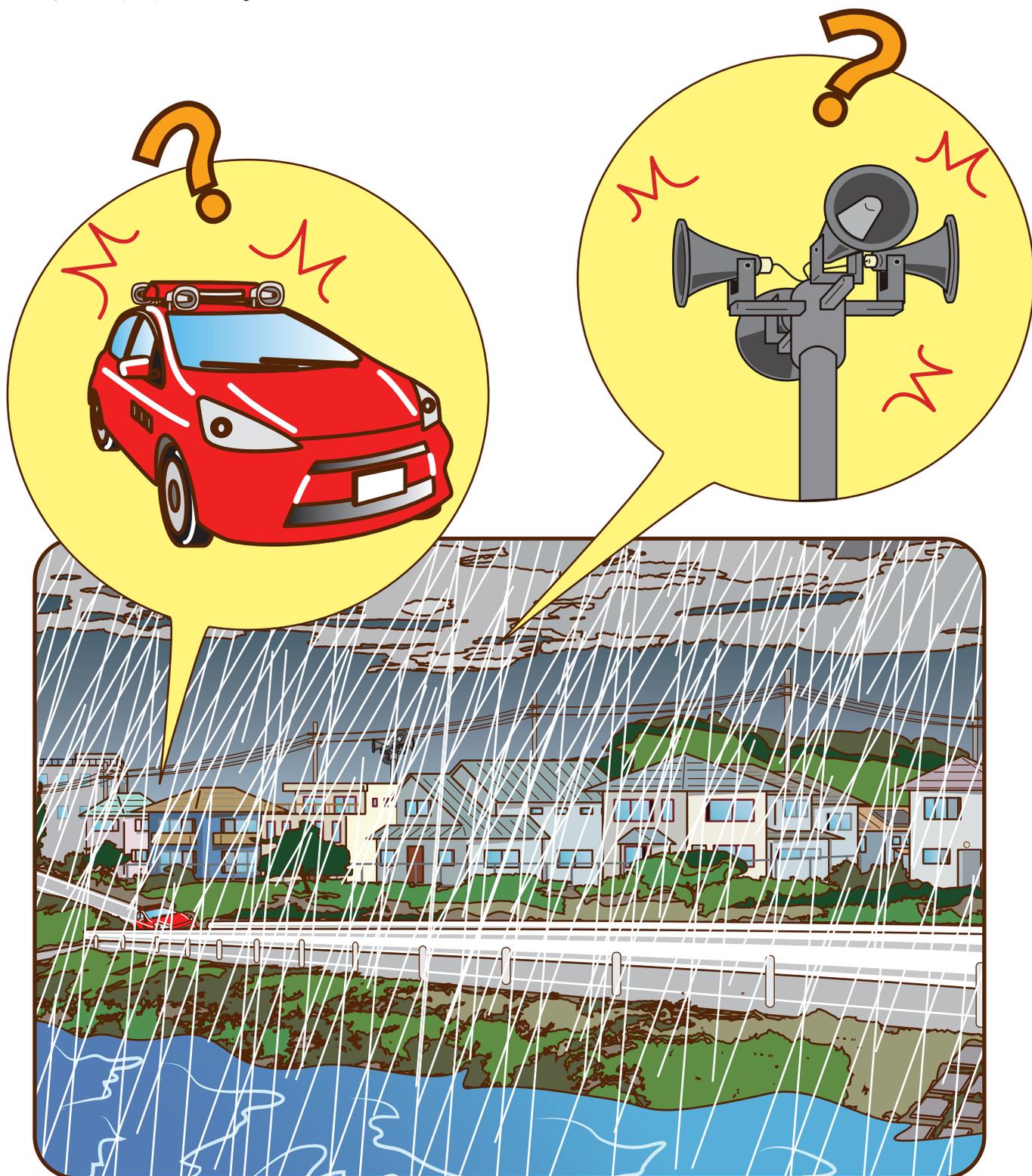
①は間違いではないけど、自分に切迫した最も大事な事は③です。

入間川の上流は飯能市だから、そのあたりに降った大雨は入間川に入って、狭山市のあたりでは川の水位が大幅に上がる事が予想されるってことね。



こん ど ぼうさいぎょうせいむせん こうほうしゃ ひ なんかんこく はつれい
今度は、防災行政無線や 広報車で 避難勧告が 発令された
みたい です。

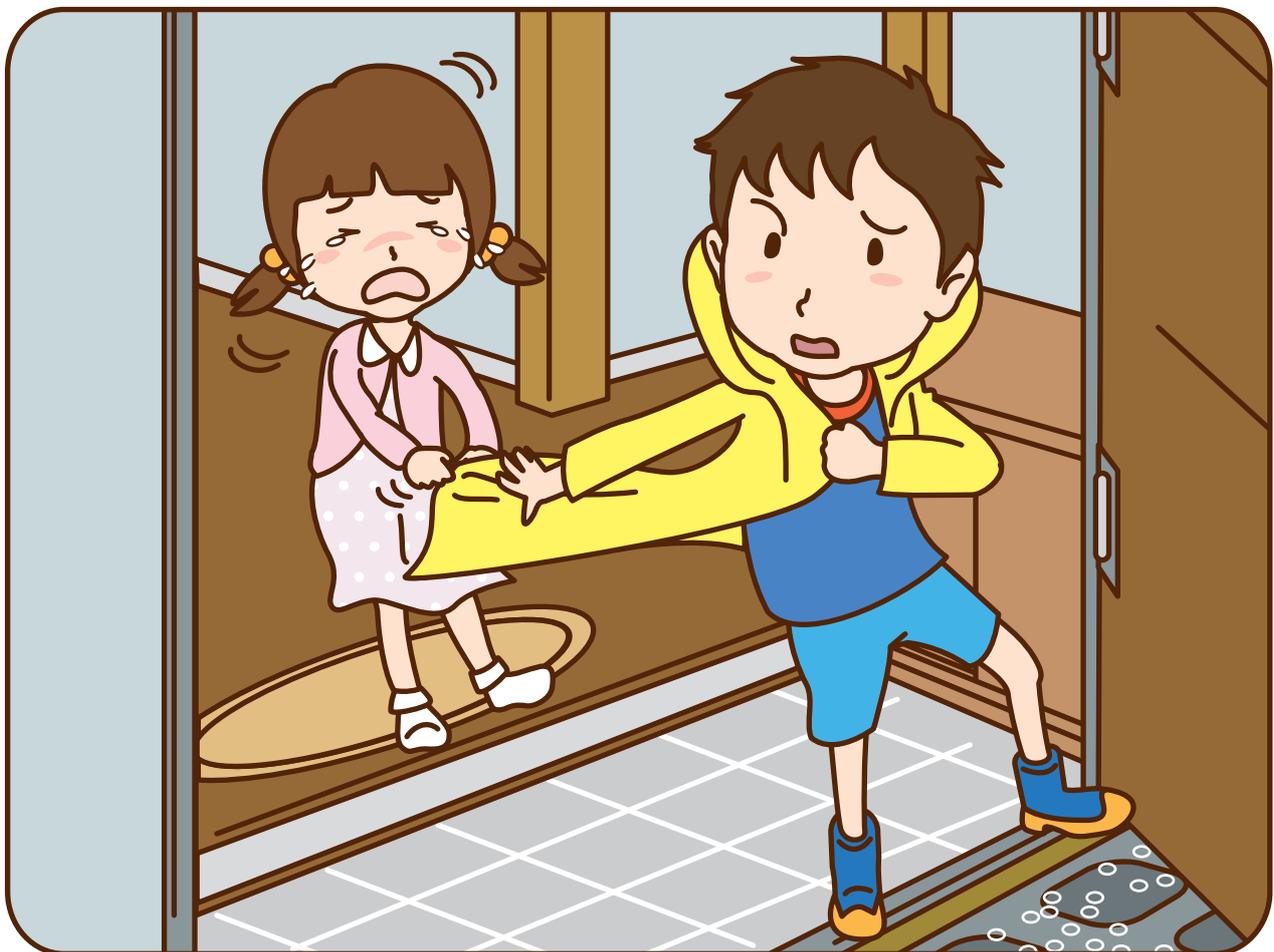
だけど、マモルも さやかも そと なに い
外で何を 言っているのか
わかりません。



おや、マモルが レインコート^きを着て 玄関^{げんかん}から 出^でていきました。

さやかには ここで待^まつように 言^いい聞^きかせています。

「むかしは マモルも 泣^ないて ばかり だったけど、 ちょっと お兄^{にい}ちゃん らしく なってきたんじゃない？」



マモルは、^{なに}何をしようとしているのかな？

① ^{ひなんかんこく}避難勧告の^{はつれい}発令を^{となり}隣の^{じちかいちょう}自治会長さんの^{いえ}家で^{かくにん}確認する。

② ^{ひとり}1人で^{ひなんじょ}避難所へ^い行ってしまおう。

③ ^{いるまがわ}入間川の^{ようす}様子を^{じぶん}自分の^め目で^{たし}確かめ^いに行く。



ふうふ かいせつ ネズミ夫婦の解説コーナー

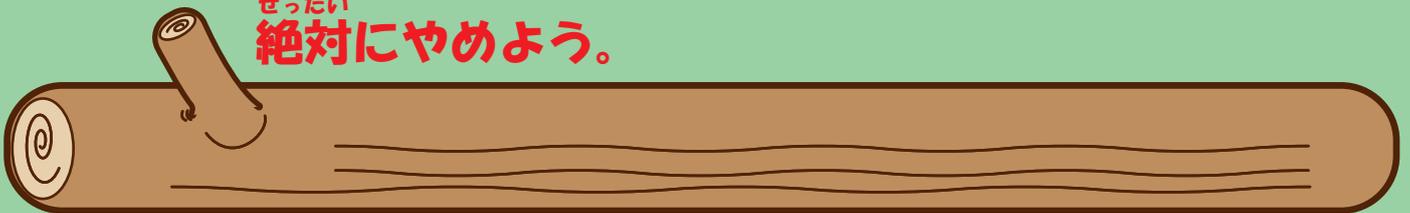


だいじ かって ひとり こうどう
大事なことは、勝手に1人で行動せず、
おとな じょうきょう かくにん
①のように大人とともに状況を確認する
ことです。

ぼうさいぎょうせいむ せん こうほうしゃ き のが
防災行政無線や広報車のアナウンスを聞き逃して
しまった場合は、近所で状況を確認しよう。
さ やまし ぼうさいぎょうせいむ せん ほうそうないよう
なお、狭山市の防災行政無線の放送内容は、
ハイ サヤマシ むりょう き
0120-81-3804（無料）で聞くこともできるよ。

ひ ごろから つきあいの ある いえ ならば、 じぶん
また、日ごろから付き合いのある家ならば、自分たち
こ がつた しえん もと
が子どもだけにいることを伝え、支援を求めよう。

ぞうすい かわ ちか きけん
③のように増水した川に近づくのは危険だから、
ぜったい
絶対にやめよう。



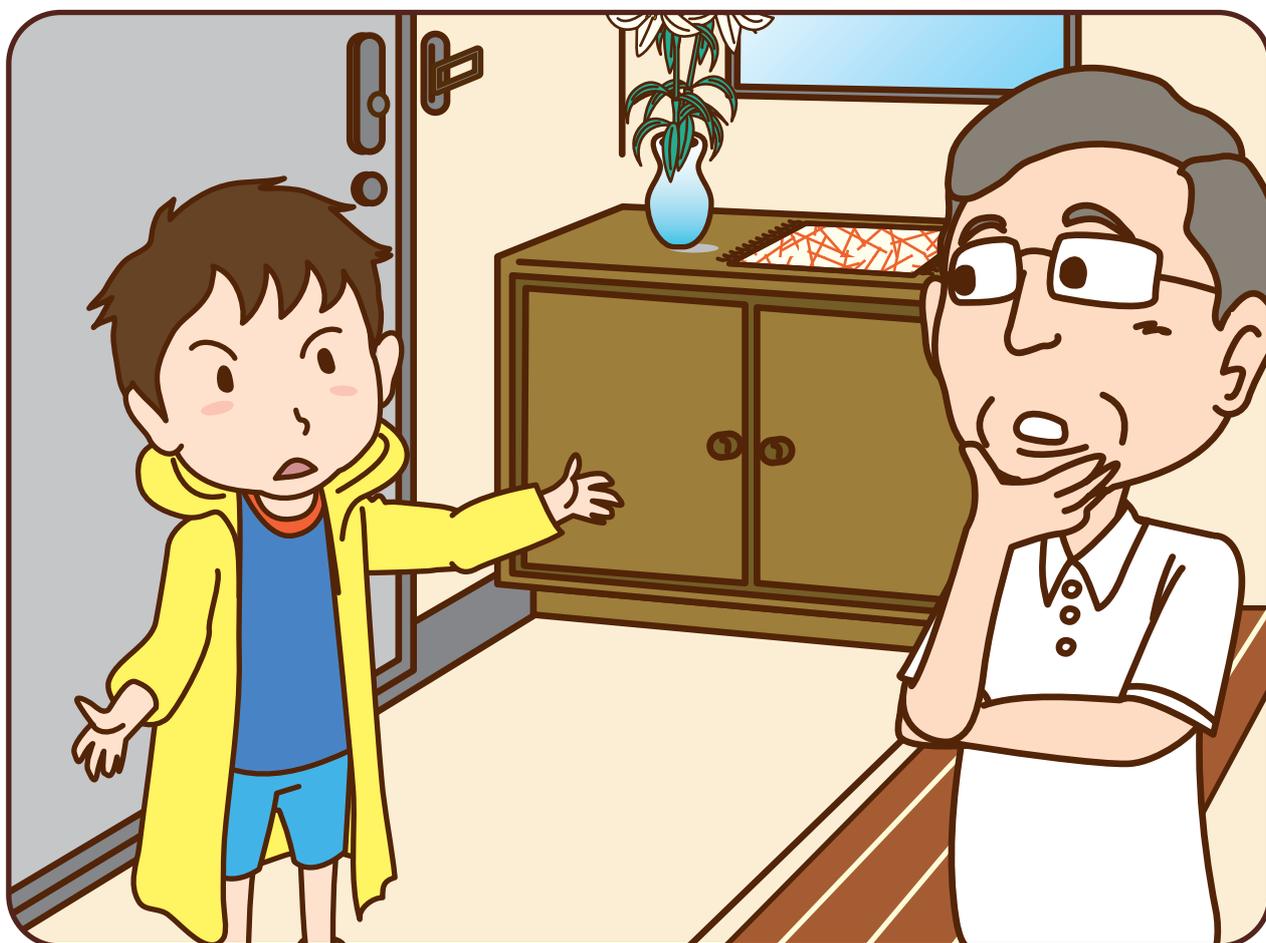
けっきょく 結局、マモルと さやかは じちかいちょう 自治会長さんと いっしょ 一緒に ひなん 避難する ことに になりました。

マモルは じちかいちょう 自治会長さんに どんなことを いう っているのかな？

① ひなんじょ 避難所は、 ていち かしわばらしょう 低地の柏原小ではなく、 たかだい い 高台へ行く。

② どしゃさいがい 土砂災害の おそ 恐れがある がけ 崖を とお 通らないようにする。

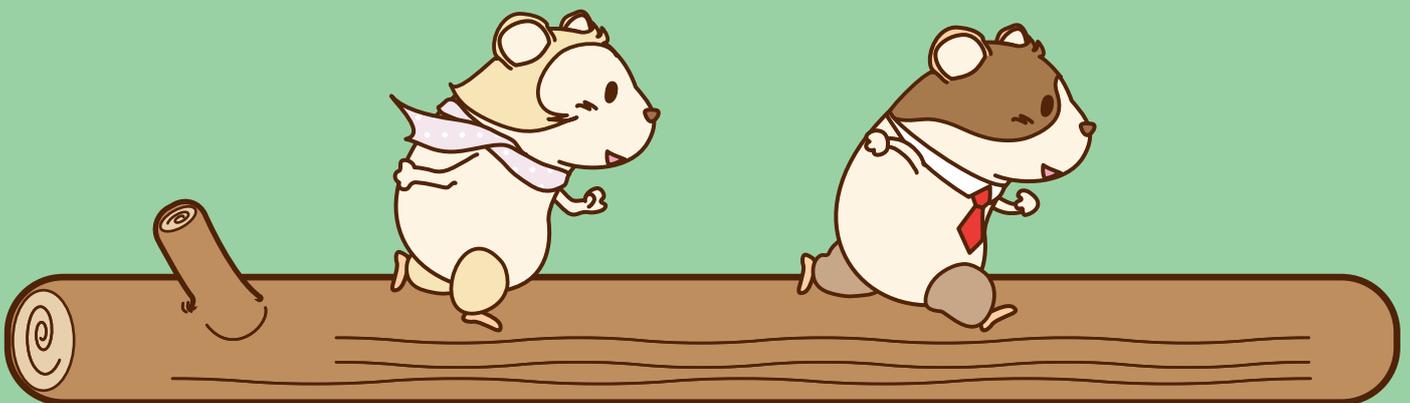
③ となり 隣の アパートにも ひと 人がいたことを し 知らせる。



ふうふ かいせつ ネズミ夫婦の解説コーナー

ぜんぶ だいじ
全部大事なことです。

- ① よ そういじょう さいがい そな かしわぼらしょう たかだい ひなんじょ
予想以上の災害に備え、柏原小よりも高台の避難所へ
い えら ほう よ
行けるならばそちらを選んだ方がよい。
- ② さ やまし おおあめけいほう で としゃさいがい
狭山市にも大雨警報が出ていることから、土砂災害の
はっせい そな ひつよう
発生にも備える必要がある。
- ③ ひなん とき まわ ひなん よ
避難する時は、できるだけ周りにも避難を呼びかけて
いく。



アパートで ^{じちかいちょう} 自治会長さんが ^{ひなん} 避難を ^よ 呼びかけています。

おや、^{だいがくせい} 大学生は ^{すがた} パジャマ姿です。どうやら、^よ 呼びかけを ^{ことわ} 断っている ようです。

^{だいがくせい} 大学生は ^{なん} 何 ^い と言っているのか ^{そうぞう} 想像してみよう。



ふうふ かいせつ ネズミ夫婦の解説コーナー



かんが たと い か
いろいろ考えられるけど、例えば以下のような
おも こ
思い込みがあるかもしれないよ。

- ① こうずい き じたく しんすい そうぞう
洪水なんて聞いたことがなく、自宅の浸水を想像できない。
- ② すこ ときに
もう少しひどくなったら、その時逃げればよい。
- ③ かい しんすい だいじょうぶ
2階だから、浸水しても大丈夫。

ひなん ひと おお おも こ ひがい
避難しない人の多くが、このような思い込みで被害にあったり、
と のこ きゅうじょ
取り残されて救助されたりしているのです。

さいがい たい にんげん きほんてき しんり だいじょうぶ おも
災害に対する人間の基本的な心理は、**まだ大丈夫だと思ったり**
さいがい かる かんが とくちょう じぶん ちゅうい
災害を軽く考えたりする特徴があるから自分で注意しないとね。

しんりがく せいじょうか へんけん
(これを心理学では「正常化の偏見」という)



いよいよ、入間川が ^{いるまがわ} 危なく ^{あぶ} なってきました。

すでに ^{すで} 堤防から ^{ていぼう} 川の水が ^{かわ みず} あふれているので、決壊するの ^{けっかい} も
時間の ^{じかん} 問題 ^{もんだい} です。

やがて、「ドッカーン」という ^{おお} 大きな音 ^{おと} とともに ^{いるまがわ} 入間川の
堤防が ^{ていぼう} 崩れ、^{くず} 川の水が ^{かわ みず} 住宅 ^{じゅうたく} を ^の 飲み込み ^こ 始め ^{はじめ} ました。
あっという間に ^ま 浸水範囲 ^{しんすいはんい} が ^{ひろ} 広がって ^{ひろ} いきます。

あの大学生は ^{だいがくせい} どうなったのでしょうか？

おや、アパートで ^て 手を振って ^ふ 必死 ^{ひっし} に ^{たす} 助けを ^{もと} 求めている
人 ^{ひと} たちが ^{ひと} いますよ。



ところで、避難所では マモルたちは 両親に 会えたので
しょうか？

「マモル！ さやか！ ああ、無事で良かった。」

ホッとして 泣き出す さやかの 肩を お父さんは やさしく
抱きました。

「マモル、あなた、偉かったのね。自治会長さんから 話を
聞いたわよ。」

お母さんは マモルの 顔を 頼もしげに 見つめています。

「僕だって 本当は ドキドキ だったけど、学校で 習ったことを
思い出して、とにかく 必死で やったよ。」



すうじつご いるまがわ もと おだ と もど
数日後、入間川は 元の 穏やかさを 取り戻しました。

ふうふ ぼうえんきょう いるまがわ ていぼう かわも
ネズミ夫婦が 望遠鏡で のぞくと、入間川の堤防から 川面を
み
見ながら マモルが さやかに 何かに 何か言っています。

むかし いるまがわ ひく とち じゆうき
「昔の 入間川は このあたりの 低い土地を 自由気ままに
なが なが こんかい こうずい あめ
流れていたんだ。だから 今回の 洪水は すごい雨 だけの
せいじゃなくて、にんげん つごう かわ ていぼう と こ
人間の都合で 川を堤防で 閉じ込めて
しまっていることも げんいん ひと
原因の1つなんじゃないかな・・・」

ふうふ め せいちょう すがた
ネズミ夫婦の 目には、ひとまわり 成長した マモルの姿が
まぶしく うつ
まぶしく 映りました。



企画：狹山市防災課

制作：朝日航洋株式会社

協力：狹山市立柏原小学校
(平成 27 年度 5 年生)